

令和5年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

| | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 一人一人の児童生徒の尊重 | 2 友達への思いやり | 3 道徳・心の教育の充実 |
| 学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。 | 子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。 | 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど) |
| | | |
| 【学校から】○「一人一人を大切にされた指導や対応」では、「そう思う」と評価する保護者が40%近く、児童が70%と昨年とほぼ同じである。教職員は「そう思う」の評価が若干減少しているが、より高い課題意識の表れと考えられ、さらなる充実を継続したい。○「友だちとなかよくしているか」では、児童の「そう思う」と保護者の「そう思う」は昨年とほぼ同じである。教職員や保護者の指導や環境づくりを今後も進め、学校での取組や児童の様子等を発信していき、更に共有を図りたい。○道徳・心の教育の充実では、保護者と教職員の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の評価は昨年とほぼ同じである。「どちらかといえば、そう思わない」が数%あり、心の教育を学校教育活動全般で、丁寧な実践を継続していきたい。○設問全てにおいて、保護者と児童の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」とする評価は、昨年と同程度の割合である。今後も、家庭と学校の連携を深め、よりきめ細やかに取り組んでいきたい。 | | |

②確かな学力を育む教育の推進

| | | |
|---|----------------------------------|--------------------------------|
| 4 意欲的な学習態度 | 5 授業力向上 | 6 タブレット活用 |
| 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。 | 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。 | 子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。 |
| | | |
| 【学校から】○「意欲的な態度」では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が保護者、児童は約90%である。教職員の「そう思う」は20%と減少したが、より意欲的な姿への期待と考えられる。「どちらかといえば、そう思わない」もあるため、一人一人の児童が実感もてるよう、改善を図っていく。○「授業、楽しい授業づくり」では、保護者、児童の「そう思う」の評価は昨年とほぼ同じである。教職員の評価は少し上がっており、更なる授業改善に取り組む。○タブレット端末の活用」の項目は、保護者、児童の「そう思う」の評価は昨年とほぼ同じであり、学校の取組の定着の現れだと考えられる。教職員の「そう思う」は7%程度減少している。児童への学習用タブレットの使い方の指導を徹底し、効果的なタブレット活用を継続していきたい。 | | |

③健やかな体を育む教育の推進

| | | |
|---|---|-------------------|
| 7 健康づくり | ④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実 | ⑤特別支援教育の推進 |
| 子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。 | 8 児童生徒理解 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。 | |
| | | |
| 【学校から】○保護者、児童の評価は昨年とほぼ同じだった。児童の「そう思わない」の評価は本年度も0となり、継続できている。また、教職員の「そう思う」と「そう思わない」に7%程の増加が見られる。新型コロナウイルスの取扱変更に伴い、以前より改善している面もあるが、一方では十分ではない状況もまだあると考えられる。一人一人の実態をもとに健康づくりを進めたい。 | 【学校から】○保護者の評価の「そう思う」は昨年とほぼ同じ割合であり、「どちらかといえば、そう思う」を合わせ95%である。児童も昨年とほぼ同じ割合であり、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせ90%近くである。しかし、「どちらかといえば、そう思わない」という意見がある。子どものよさを見つける取組を継続し、さらに、全職員での児童理解を進めていきたい。 | |

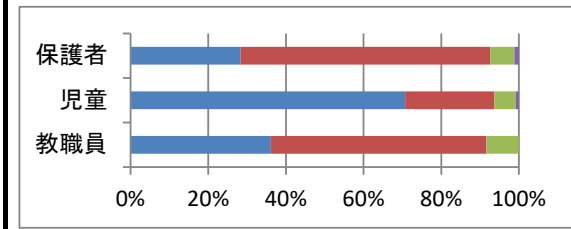
| | | |
|--|---|--|
| ④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実 | ⑤特別支援教育の推進 | |
| 9 いじめや問題への対応 | 10 学校の支援体制 | 11 共生社会を担う人材の育成 |
| 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。 | 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。 | 「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。 |
| | | |
| 【学校から】○「いじめや問題への対応」に関しては、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の評価は、昨年とほぼ同じ90%となっており、保護者と学校の連携の結果と考えられる。教職員の「そう思う」は昨年度の評価と比べると少し上がっている。学校としての取組をしっかりと継続し、日頃の家庭との連絡や教育相談等の機会を捉えて連携していきたい。○「学校の支援体制」に関しては、保護者、教職員とも90%以上が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が90%を超えた。十分でないという意見もあり、意思疎通をしっかりと図りながら、学校と保護者の連携をさらに進めていきたい。○「交流及び共同学習」に関しては、保護者、児童の評価が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせるとおよそ90%となった。教職員の「そう思う」が10数%減少している。受け止めた課題となる点を改善するよう、学校全体として取組を継続させていき、児童の育成を行ってきたい。 | | |

⑥子どもたちの身近な安全対策の充実

⑦最適な学習環境の整備

12 安全と事故防止

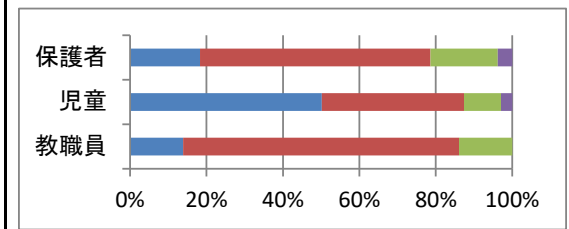
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



【学校から】○保護者と児童の評価は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が昨年より若干増加した。教職員は「どちらかといえばそう思わない」が見られた。コロナ禍の状況が緩和され、活動の機会が増えている分、児童の安全、事故防止に対する意識が場も増加したと考えられ、安全教育を推進していきたい。

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

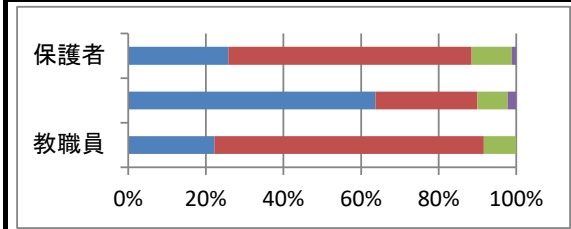


【学校から】○保護者の評価「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」が20%ほどあり、昨年と変わらず施設等の安全管理の課題意識が高い。教職員の「そう思う」は、昨年度より10%程減少し、安全点検をはじめとする日頃の安全面への意識は高いと考えられ、今後も適切な安全管理に努める。

⑧家庭・地域社会との連携強化

14 教育方針・目標の理解

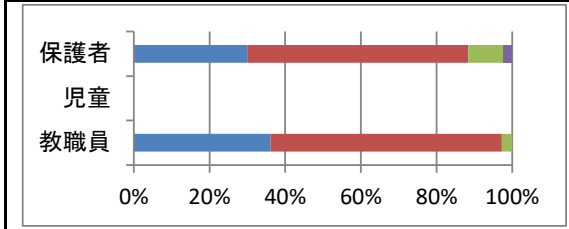
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】○教育方針・目標の項目では、保護者・児童の評価とも、昨年とほぼ同様の評価である。教職員においては、児童の実態の的確な把握の上に、学校教育目標の達成に向けて、連携をしながら取り組んでいきたい。○家庭や地域との連携に関しては、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が90%近くの評価となり、昨年とほぼ同じである。教職員では「どちらかといえばそう思わない」があり、行事の場を中心に、日頃からの連携をより細やかに行っていきたい。

15 家庭や地域との連携協力

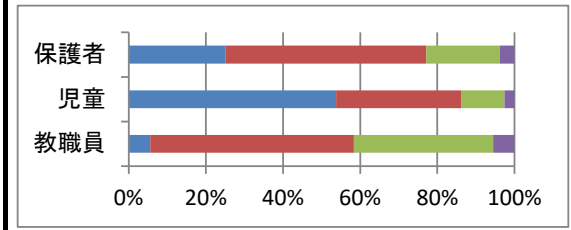
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



⑨本校の教育

16 心づくり

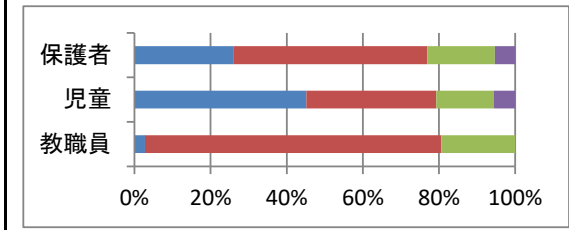
子供は、自分から進んであいさつをしていると思いますか。



【学校から】○進んであいさつは、「託小っ子100点満点」の1つの項目であり、指導や声掛けを継続している。昨年とほぼ同様に、児童の意識は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が80%を超え、保護者は80%弱、教職員は70%程となった。具体的な望ましい状況を共有し、みんなが気持ちよく生活できるよう、積極的に取り組みたい。○家庭学習の習慣は、保護者と教職員の評価は昨年とほぼ同様だが、児童の「そう思わない」が少し増加している。適切な児童理解のもと、家庭での時間の使い方の指導など学校としてできることを保護者と連携してやっていきたい。○「早寝・早起き・朝ごはん」については、保護者・児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が昨年より少し減少した。教職員の評価は、昨年より伸びており、継続して連携を図りたい。

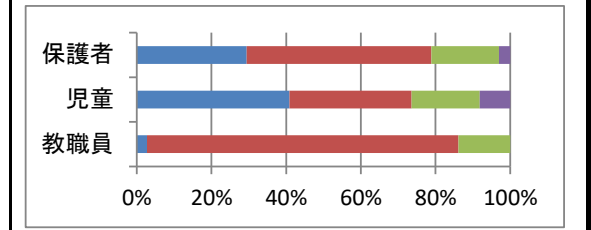
17 学びづくり

子供は、家庭学習の習慣が身に付いていますか。



18 体づくり

子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていますか。



来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標・方針は、学級・学校便り、PTA新聞や活動、諸団体との会合等、ありとあらゆる機会を通じた発信を継続していく。学校の教育活動は全て、教育方針に

則り、教育目標達成へ向けた活動であることを、行事等の具体的な活動を通してわかりやすく伝え、保護者・児童・地域で認識の共有を図る。

○児童・保護者・地域社会に信頼される学校の教職員であるよう、日常生活や研修等の中で常に研鑽を積んでいきたい。また、授業改善等、教師の指導力向上を図り、児童に主体的、対話的に学んでいく姿勢等、これからの時代を生き抜く力を育てていきたい。

○学校と保護者の連携による適切な児童理解のもと、校内支援委員会を中心とした体制の中で、必要な支援について確実に検討し、共通理解のもと実践していく。

さらに、PDCAサイクルで常にふり返りと改善を行い、児童の育成を図る。

○本校の教育目標・方針に沿い、新型コロナウイルス感染状況に合わせた教育活動を計画・実施していく必要もある。児童の安全や健康を第一に、学校行事の精

学校関係者評価

○各学年の落ち着いた授業の様子を見ることができた。低学年は、年度初めの様子と比較すると、授業態度に大きな成長を感じた。学校での日々の指導や取組の成果がこの姿につながるということを改めて感じることができた。

○校舎周りの樹木が適切に剪定されており、教室や廊下などが明るくなっている。児童のための環境づくりがしっかりと行われている。

○廊下の棚の位置を移動し、児童の安全な暮らしのため工夫が行われていることがよい。また、窓の安全対策も行われており、丁寧な取組を知ることができた。さらに、設備の安全や緊急時の対応を推進してほしい。

○ごみを拾ったり履物を揃えたりすることができる児童の豊かな心を育てていくことが大切だと感じる。学校生活での指導だけでなく、家庭や地域社会が連携して育てていくことが必要だと思う。

○「自分から進んであいさつをする」児童の育成をさらに推進してほしい。子どもたちへの声かけや指導だけでなく、周りの大人が言葉や行動で手本を示し、自分から進んであいさつをする児童を育てていくことが必要だと考える。